

経営比較分析表

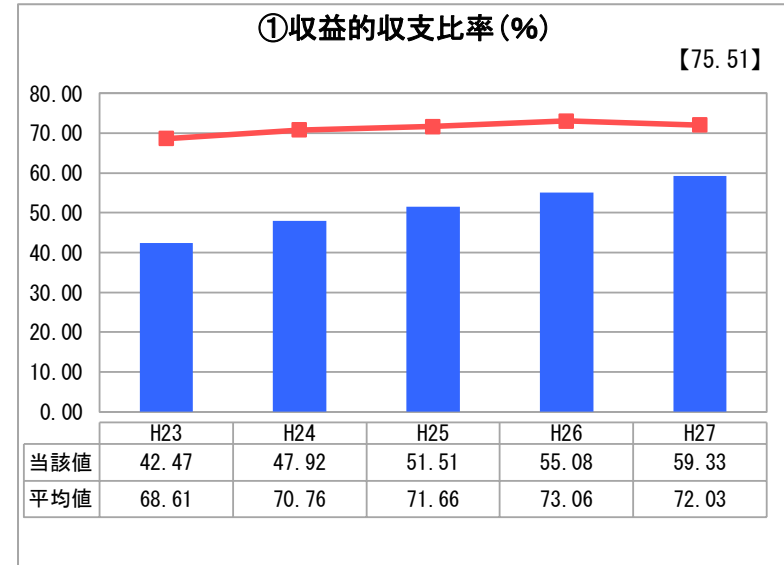
秋田県 五城目町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.31	5,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,984	214.92	46.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
725	0.52	1,394.23

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



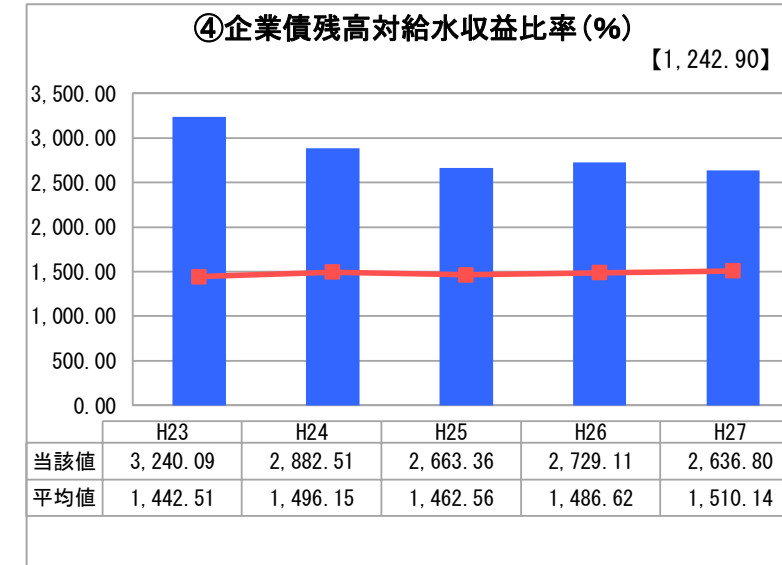
「単年度の収支」



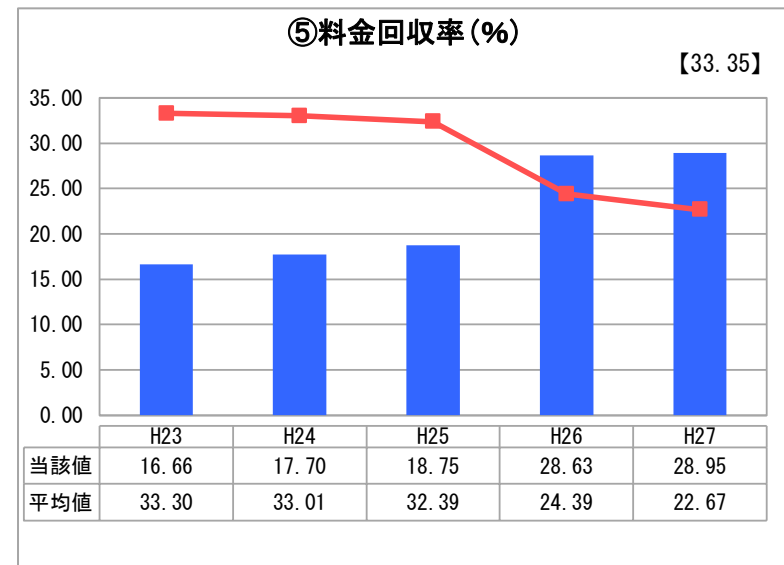
「累積欠損」



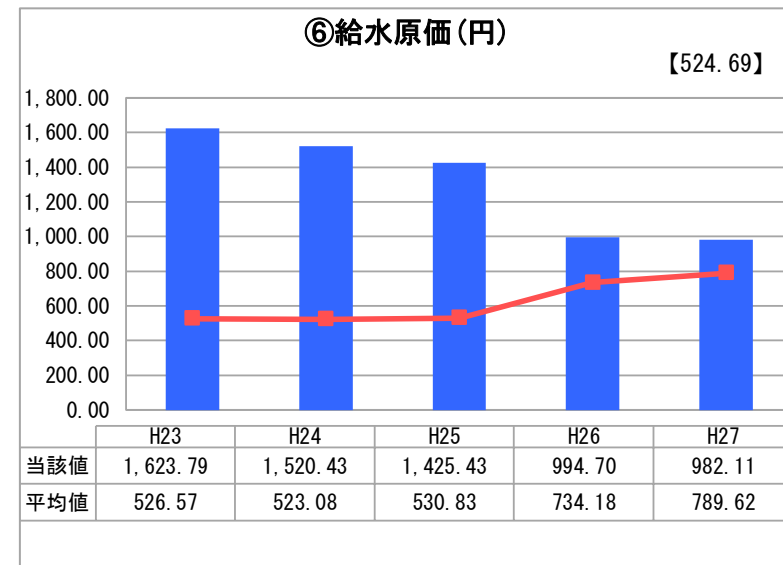
「支払能力」



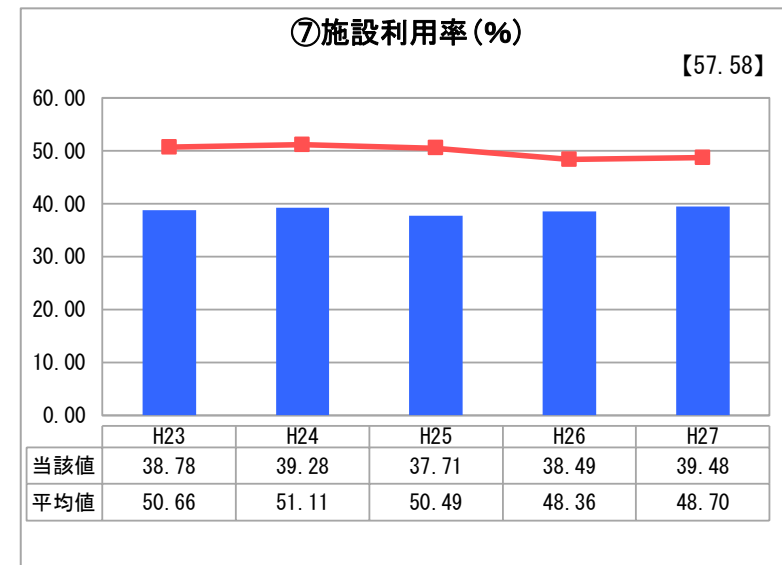
「債務残高」



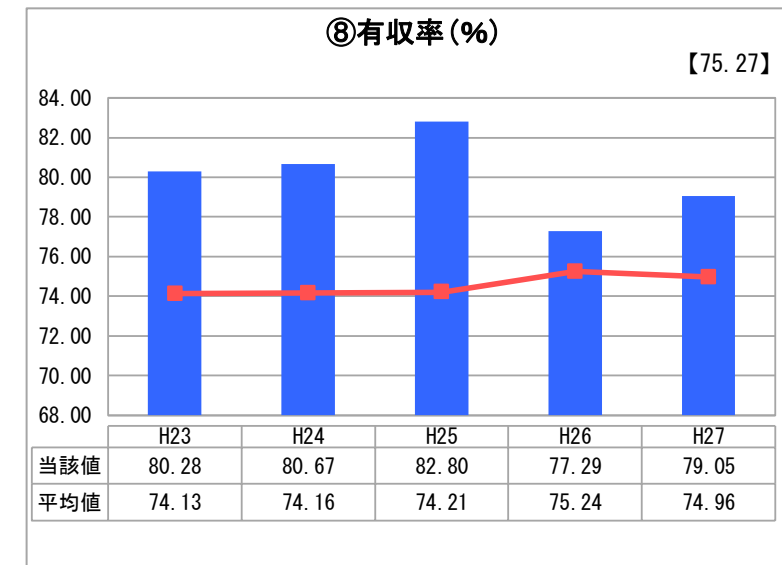
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

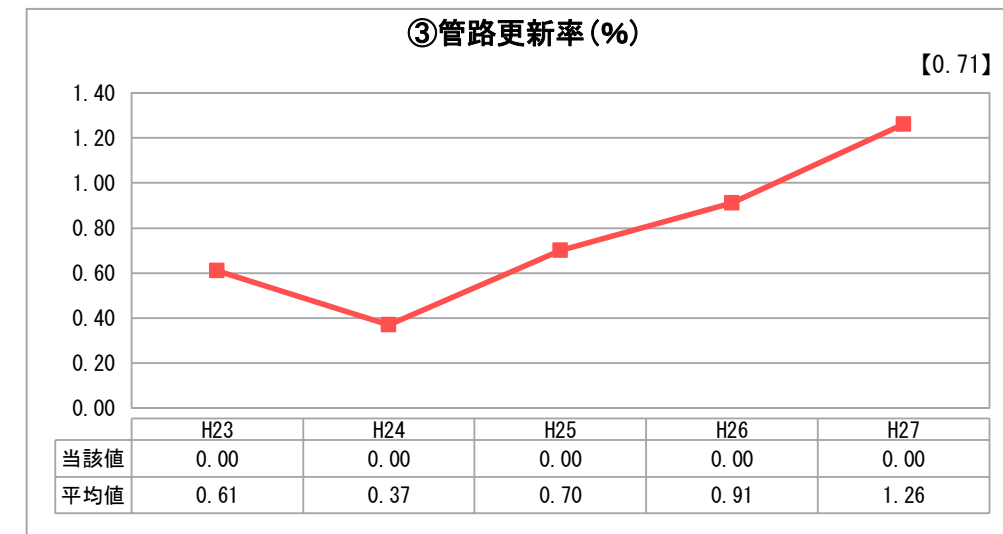
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率について
これまで未加入だった世帯の水道加入が見られ給水収益は微増となっていますが施設整備に要した地方債償還が大きく平均より比率は下がっています。

④企業債残高対給水収益比率について
地形的要因で事業費が割高なことから企業債残高が高くなっています。反面、人口減少に伴い料金収入が少ないため類似団体と比較して比率が高くなっています。

⑤料金回収率について
人口減少と高齢化による使用料収入の少なさと、事業費が割高なことから支払利息が大きくなっているため比率が低くなっています。

⑥給水原価について
地形的要因と小規模な給水区域であることから施設整備費が割高で給水原価が高額になっています。

⑦施設利用率について
高齢世帯の増加や人口減少が著しく節水型給水器具の普及等により一日平均給水量の減少は今後も続くものと思われま。

⑧有収率について
施設整備後の経過年数が比較的小ないため有収率は高くなっています。平成26年度における率の低下は杉沢地区における配管布設替え工事の際の事故等での漏水水量がカウントされているもので一時的なものです。

2. 老朽化の状況について

設備、施設等については更新時期にまだ到達していませんが、適切な維持管理に努めます。

全体総括

生活用水その他の浄水を町民に供給し公共福祉の増進を図ります。
人口減少、節水型給水装置の普及により給水収益が減少傾向にあることから宅内漏水等の早期発見により有収水量の増加を図ります。
また、平成29年度に水道事業会計へ経営統合する予定です。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。